

## 会 議 録

会議の名称	平成29年度 第1回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成29年(2017年)7月6日(木) 15時00分～17時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	4人
公開しなかった理由			
出席者	委員	舟岡 直子 大野 俊介 天瀬 恵子 松田 美和子 岸本 岳文 瀬戸口 誠 有本 恵子	
	事務局	吉田教育委員会事務局長 北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 萩原岡町図書館副主幹 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長 河本岡町図書館主査 藤家施設活用課長	
	その他		
議題	1 委員の紹介 2 豊中市立図書館における中央館構想について 3 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 平成29年度（2017年度）図書館協議会

日時：平成29年（2017年）7月6日（木）15時～17時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：舟岡 大野 天瀬 松田 岸本(委員長) 瀬戸口 有本

欠席者：渥美 岡田

事務局 吉田 北風 須藤 虎杖 松井 萩原 山根 永島 河本 藤家

### 開 会

資料確認

委員紹介

事務局職員の紹介

教育委員会事務局吉田事務局長よりあいさつ

委員長及び委員長職務代理者の選任について

\* 吉田事務局長を仮委員長として、委員長の選任を行った。

### ●事務局

図書館条例第6条第2項で、協議会の委員長は委員が協議して選任することとなっている。また、同条第5項で委員長に事故ある時は、あらかじめその指定する委員がその職務を代理することになっている。まず委員長の選任をしていただき、次に委員長から同職務代理者を指名していただきたい。なお、委員長の任期は委員の任期によると定められており、平成31年6月30日までとなる。

### ●仮委員長

それでは委員長の選任について、ご意見をいただきたい。自薦、他薦いずれでもかまわない。

### ●委員

公立図書館に造詣の深い岸本委員を推薦する。

### ●仮委員長

他にご意見は。

意見がないようですので、岸本委員を委員長に選任するという事で異議はありますか？

(一同拍手をもって承認)

異議なしということで、岸本委員が委員長に選出された。委員長席にお移りいただき、ご挨拶と委員長職務代理者の指名、議事の進行をお願いしたい。

### ●委員長

岸本です。精一杯努めるので協力をお願いしたい。それでは、委員長職務代理者には、本日欠席ですが渥美委員に委員長職務代理者をお願いしたいと思っている。

## ●委員長

それではお手元の次第に沿って議事を進めさせていただくが、ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則的に会議を公開しており、傍聴については10人を定員にしているが、ご希望の方が定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容については、後ほど報告させてもらう。発言者については、個人名を掲載せず委員とのみ表記することをご了承いただきたい。

次に前回会議録については事前に送付されたものに委員の方々のご意見はなかったので、公開の際にはお手元の記録と同じように、概要として発言者については個人名を掲載せず、「委員」とのみ表記することを了承いただきたい。

議事に入る。事務局より資料2：豊中市立図書館における中央館構想について、資料にそって説明をお願いします。

## ●事務局

事務局より今年度の協議会での議論の進め方について説明する。

昨年度の協議会で、(仮称)南部コラボセンターにおける図書館機能について議論し提言をいただいた。それをふまえて、今年度は広く市民の皆様の意見を伺う場としてラウンドテーブルも開催しながら、基本設計に向けて取組んでいるところである。今後は開館に向けて取組みが進む中、開館後の施設配置のあり方についても議論を進めていきたい。

平成25年度協議会での答申の内容をふまえ、その後の図書館を取りまく様々な状況の変化等も勘案しながら、仮称南部コラボセンター開館後の施設配置については、図書館だけでなく教育委員会や市として検討を進めていく。また、図書館運営や機能のあり方・サービスについては、これまでも本協議会においてその都度ご議論いただいているので、教育委員会等での議論の経過を示しながら、様々な角度でご意見をいただき、それを参考にしながら検討を進めていきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

続いて議論いただく前提として、今年3月に策定された「豊中市公共施設等総合管理計画」(資料3)について、施設活用課長の藤家よりその概要を説明する。

## ●事務局

私からは、いま話に出た図書館施設のあり様と配置についてだけでなく市の公共施設全般にわたる概要の説明になる。

まず、現状分析として人口が減少し高齢化が進み、経済状況も右肩上がりではなく社会保障経費の増大などとりまく状況は、高度成長期と違っている。そんな時代の公共施設のあり方も、当然高度成長期とは大きく異なってくる。このような情勢下で、公共施設等の総合的かつ計画的な維持管理を推進するために「公共施設等総合管理計画」の策定に取り組むよう国からの要請もあり、豊中市のみならず全国の自治体が取組んでいる。

豊中市は昨年度に策定を終え今年度より取組みを開始している。この管理計画は、建物施設（学校教育系施設、公営住宅、産業系施設、社会教育系施設など）とインフラ施設（道路、橋りょうなど）を対象にしている。

最初のページにあるように、本市を取りまく社会的状況については、少子高齢化の進行にともなう社会保障経費の増大と人口ボリュームも減っていくと推計されている。その下にある棒グラフは、建物施設の用途分類別と建設年次を明示している。一番大きな山が昭和45年から同49年、次が平成7年から同11年、その次が昭和40年から同44年になっている。それぞれいくつもの施設の建設が重なった時期や大きな施設が建築された時期ということになる。平成7年から同11年は市立豊中病院の建設が大きな部分を占めている。昭和40年から同49年にかけては、学校や子育て支援施設等の教育施設が多い。これらの建物が順次更新の時期を迎えるのを踏まえ、施設の維持をどう考えていくかが課題となっている。

次ページ上の棒グラフは現状の施設規模で建替え・改修を行った場合の費用試算。このグラフを詳細に見ると、比較的連続して高い位置にあるのは平成35年から同47年になりピークは平成39から同40年あたりになる。この条件で単純計算し年平均すると約115億円となり、直近5年間の施設への投入実績の年平均が約77億円であるので、この差額が不足分となることを示すシミュレーションである。

中段は、これからの公共施設の「量」についての市民アンケート結果で、市民ニーズや財政状況に見合った量に減らすとの回答が76.1%で最多であった。課題をまとめると、施設の老朽化によるサービスの低下や停止などを避けながら安定的に施設を維持していくことを前提に、市の財政の裏づけがある形を探っていくことの必要性および現状の施設利用方法の見直しや提供サービスへの市民ニーズの変化や多様化に鑑みながらその対応を考えていくことの必要性である。

3ページ以降は、この課題を視野に入れながら、全体をうまくコーディネートし計画的に更新していくための公共施設マネジメントの8つの基本方針になる。施設の安全性能の維持・向上が最初のテーマになり、2.施設総量フレームの設定は、将来経費を見据え持続可能な公共サービスを提供するためのもので、施設の現状維持が困難な中で、分量を減らす必要性とともに単純に減らすのではなく、同時に工夫を加えるということも述べられている。施設総量の目標の明確化ということで、道路、橋梁、水道などのインフラ施設については慎重に検討していきながら、建物施設については、平成26年度ベースで施設の総延床面積を80%内に設定。3.財政負担の平準化、これは施設の現状や再編を考慮した建替え・改修の実施の判断や実施時期の調整等で平準化を図る。4.維持管理費の削減は、整備・運営段階での経費節減を念頭に置くということ。次ページの5.戦略的配置、複合化・多機能化の推進とは、現状の施設は様々な経緯や必要性があつての配置だが、将来の有効な施設配置のあり方を考える上で、たとえば1建物が1施設でなく施設の複合化や多機能化によるコスト削減、相乗効果の創出も含めた戦略的配置ということになる。

6.市民ニーズの変化に応じた機能整備、施設のサービスや利用方法の周知のあり方の検討の必要性。発信した情報の受信度、理解度、必要な情報の到達度等を見直していく。7.公民連携の促進。可能な部分で民間のアイデアやノウハウを活用し協力を得ていくということ。8.受益者負担の適正化。コスト、サービスに見合う受益者負担ということで、たとえば、スポーツ施設は既にそうになっているが、それを他施設でも推進

していくということ。

この管理計画は、昨年度作成し平成52年度が目標年度になり、今から26年間の計画である。今年度は施設種別ごとに「施設再編方針」を策定中。図書館や公民館など施設を種別ごとにくくりとして、将来的な利用見通しやサービス内容の変化、施設の在り方等の方針を考察し、現時点では詳細のものではなく具体的なものの一步手前で、たとえば2つの大きな施設とサテライト等にするなどの考え方の方針を策定していく。それに続いて重点的に検討すべき施設から順次、「個別実行計画」にまとめていこうと考えている。これは施設種別ごとの「施設再編方針」が出揃ってからになる。20年30年先の長いスパンの計画なので現時点での確実な予測は不可能。全体方針は、平成40年度に社会情勢等の変化を見ながら、内容・目標値の中間見直しを行う予定。

配布の「豊中市 次世代につなぐ公共施設フォーラムの記録」（資料4）には他自治体の事例なども記載されているので、この「総合管理計画」をより理解しやすくするための補完資料と考えている。

## ●事務局

次に、今回の提案内容について説明する。A3版の資料2「豊中市立図書館の施設配置について」の左側は、H25年度図書館協議会答申「豊中市立図書館の今後の戦略的な施設配置について一特色ある図書館づくりや地域の知の拠点としての施設のありようなどをふまえて」であるが、その内容は、下線で示している視点・観点についてふまえるべき点を明示いただいたものとなっている。

まとめとして、公共図書館の価値を矮小化するような施設配置見直しは、地域のネットワークを損ない、潜在的エネルギーの低下や弱体化につながる危険がある。これまで市が責任を持って展開し、地域の市民がそれに共鳴するようにつながり育ててきた、図書館事業の効果を最大化する方向で、施設配置の見直しが行われる必要がある。と結論付けている。

その答申などもふまえて、市立図書館では様々な取組みを行ってきた。それをまとめたものが、上の太矢印の先「その後の動き」になる。・豊中市立図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）公表・岡町図書館の管理事務の集中化・セルフ貸出機、返却機等を設置、また、分館の機能見直しとして・高川図書館の多機能化（仮称南部コラボセンターサテライト機能）さらに、利便性の向上として・千里図書館における開館日の拡大・利倉西センター図書室開室（バス図書室、近隣の動く図書館巡回のサービス終了）最後にサービスの拡大として・北摂7市3町における広域利用開始・庄内図書館限定で大阪市民の広域利用開始・図書館サポーター活動開始などを実施してきた。

昨年度ご議論いただいた（仮称）南部コラボセンターは、H34年の開館予定となっている。一方施設の現状として上の矢印の下「施設の状況」として岡町図書館は、H30年耐震工事を予定している。（IS値0.6以上）また、野畑図書館はここ数年雨漏り等施設維持管理面で課題をかかえている。

それから、市立図書館をとりまく状況の変化（内的要因）として、築48年となる岡町図書館の老朽化。（今年度も3階4階の空調工事を8月から実施予定）また、フルタイム職員および再任用職員の減少、H25年度から市として取り組んでいる「事務事業の見直し（特定事業）」、さらに先程説明のあった「公共施設等総合管理計画」などである。

一方、社会情勢の変化（外的要因）として、スマートフォンなどのメディアが進化し

普及したことにより、誰でも容易にインターネットで調べることが可能となり、より専門的かつ正確な情報提供サービスが必要となっていること。図書館以外にもまちライブラリーなど本を介して人と人が出会う場が増えてきたこと。滞在型図書館、カフェ設置の要望が強くなってきたこと。コンピュータ等の技術革新により、業務の自動化が進んできたことがあげられる。

下の四角の「現状の振り返り」では、4地域館を中心とした体制について、よいところと強めていきたいところについて現状分析をしている。よいところでは・図書館規模の差が比較的少ないことから地域格差が小さい、徒歩・自転車などで利用可能な施設配置、子育て支援、エリア内の学校図書館との連携、障害者サービスなど地域密着型サービスの利点をあげている。他方強めていきたいところでは、・資源（資料、人材など）の集中・図書館方針の迅速な決定、オール豊中の事業実施、・選書から資料整理、各館への配架、書庫入れ、廃棄までの一括管理、等集中化に関すること。

より専門的なサービス等向上に関することとして、市民へのワンストップサービス（専門的なレファレンス機能等）・複合化した課題解決に対応（多文化共生×子育て支援、子育て支援×就労）となり、利便性の向上として・開館日・開館時間の拡大の可能性、・ブランドイメージの向上等となっている。

それらのことを総合的に勘案して市として将来の施設配置についての考え方を右四角に示している。まず前提として、図書館施設の老朽化等、今後の予想される事態を想定して、施設配置のあり方について検討の必要性。その内容としては、（仮称）南部コラボセンター開館後の図書館体制のありようを考える際、「公共施設等総合管理計画」等、将来にわたる安定した市政運営をめざす市としての方向性、市立図書館を取りまく内外の状況の変化などを総合的に勘案したところ、資源の集中化が必要となってくる。また、現状の4地域館を核とした体制を振り返る中で、今後の図書館運営・サービスの向上をめざしていくためには、体制の見直しを検討すべきと考えられる。さらに、千里や南部のコラボセンターの図書館等を統括する機能が求められてくる。

これらのことから、（仮称）南部コラボセンター以降将来にむけては、中央館機能を持った図書館を核として施設配置の検討を進めていく必要があると考えている。

こちらにお示ししたことについてご議論いただくよう、よろしくお願いする。

#### ●委員長

今の説明について、質問・意見等があればお願いします。

#### ●委員

私は初参加なので経緯をまだよく理解していないが、基本的なところで質問する。資料2「豊中市立図書館施設配置について」の現状（4地域館等）の振り返りのところでメリットとして「地域格差が比較的小さい」となっているにもかかわらず、中央館機能を持った図書館を核として施設配置を検討することになった前提の話し合いがあったと思うがそうした転換の動機は何か。

#### ●委員長

よいところとして「地域格差が比較的小さい」といいながら、中央館がなぜ必要なのかという疑問だと思うが、中央館機能を持った図書館の検討は、特に前提となる議

論がある訳ではない。

メリットの側面はデメリットでもあるわけで、地域館の地域格差が少ないというメリットは、各館がどんぐりの背比べになり能力が拮抗している状態で、中央館的な統括するしくみや働きの機能は当然弱くなるというのが事務局の説明だと思うが、こういうことを踏まえ再度説明願います。

#### ●事務局

確かに4地域館の格差が少ないことは利用しやすさにつながる利点だが、限られた資料費と限られた人員をどう配置していくのか、たとえばレファレンス機能を考えると資料が各館で分散するのは効率的でなく、中央館的な機能を待った図書館に集約することで高度なレファレンス対応や全域を見通したサービスができることなどが中央館のメリットの一つだと考えている。

#### ●委員長

問題意識の一つとして、施設活用課長から説明のあった市全体の公共施設の再編があり、それと事務局から見えているメリットの陰にあるデメリットにどう対応していくかという問題意識が、おそらく中央館機能の検討といったものにつながっていると思うが、これはある意味図書館を運営管理する立場からの一つの視点である。利用者側から見たらどうなのかという視点で、図書館が把握しているメリット・デメリットについて少し違うよという部分があれば指摘しながら議論を進めていってはどうか。

#### ●委員

これから予算の面などで将来を見据え、ICT等を使って効率的に多数の市民の情報ニーズに応えられる機能として、中央館化していくことが必要だという解釈でいいのか。

#### ●委員長

施設としての中央図書館ということに限定せず、これまでの図書館活動を省みて、図書館に求められる全体的な統括的機能がうまく機能しているかなど検討しながら、中心的機能をどう構築していくかだと考えるが、事務局として、その点はどうか。

#### ●事務局

将来に向けては、現状の9館体制（4地域館と4分館1分室）という形だけでなく様々なサービスの形を追及しながら、その可能性も含め総合的に施設配置を考えていきたい。

#### ●委員

イメージがわからないということではないが、地域館が4つあり、それぞれビジネス支援だと千里図書館、子育てについては野畑図書館など特色ある4地域館をまとめるという形になるのか。

#### ●事務局

前提として中央館の規模・位置なども含め中央館の機能をどう考えていくかによって各地域館の特色をまとめた形でいくのかどうかは今後の議論になる。たとえば、シングルマザーの方への就労支援の資料提供を考えた時、就労支援のコレクションと子育て支援のコレクションは分散しているよりは集中化してワンストップで情報提供していくほうが、効率的で適確に対応できるのではと考えている。

#### ●委員

今の形に慣れ親しんできたので、一つの大きな中央図書館でサービスを一括して行うことがいいのかよくわからない。勿論やりようだとは思いますがイメージが湧かない。

#### ●委員長

事務局の考えでは、中央館という施設のイメージではなく今の図書館の働きの中で統括した機能をどう押さえていくのかが重要になってくるということだ。滋賀県の例になるが、市町村合併が多く、各市町村の図書館は単一では良いサービスをしていたのが、合併後どこの図書館が核になるのか考えていないと効率が悪いサービスになる。同じようなことが豊中市立図書館にも言えるのかもしれない。中核的な仕事を図書館がどう果たしていくのか、図書館の機能全体をレベルアップするためにも、この議論がこれから必要になってくる。

#### ●委員

図書館は、建物より機能が大事だと考えている、個別ニーズを、各地域図書館で応えていたのでは効率が悪く一貫性のないサービスになってしまうことから中央館構想が出てきているのではないか。スマホなどで容易に情報検索が可能な時代になり、施設としての図書館の重要性が徐々に減じられてきているが、機能としての図書館も変化が求められていると思う。たとえば、レファレンス機能がこれからの図書館にとって重要だということ言えば、「総合管理計画最終年」の26年後にもレファレンスを担える人材育成を、施設配置等懸案事項もあるが、中央館構想と同時に考えていく必要がある。

#### ●委員長

人の力がより必要になってくる中で、人員を増やすという考えはもはや出来ない、一人一人の能力・マインドをどう高めるのか。人を育てる仕組みを全市的にどう構築していくかが、ここで記載されている「人材の集中」につながると考える。

#### ●事務局

その通りだ。豊中市立図書館としても人材育成は重要だと認識しており、専門的スキルの向上のため研修にも計画的に参加している。ただ、各館分散した現在の体制より集中した体制で人材育成にシフトしていく必要があると考えている。

#### ●委員

その人材育成は中央館が担う、レファレンスは中央館で担うという解釈で良いのか。



### ●事務局

レファレンス受付窓口としては身近な図書館を考えている。現在のレファレンスのやり方は、受付館単独でなく各館横の連携を取りながら、より最適な資料提供を行っているが、将来的には受付館から集中的して効率的に応える機能を持った中央館につないでいくイメージを考えている。

### ●委員長

前述の地域館格差の少なさに関連するが、レファレンス資料の所蔵冊数の差があまりないことで、ある館が応えられなければ他の館でも同様である可能性が高くなる。それに比べて、中央館化することで各館1万冊の資料が、3万～4万冊の資料を集中することができる。そして、適正に配置された職員による中央館でのレファレンス機能は、各館で受付したものを中央館での迅速で深みのあるレファレンス対応が可能となる。また、中央館が対応したレファレンス結果を材料として話し合いを持つことで、職員のノウハウの向上や回答方法や資料の選択の検証を行えることで実地研修となる。中央館での人材育成のイメージの一つとしてこんな風に考えている。

### ●委員

各地域館に今いる職員配置を変えるということか。たとえば、地域館2人であったのを1人にして中央館を増員するとかになるのか。

### ●事務局

機能を中央館にどう集中するかによって人の配置も変わってくるので、人の集中化も合わせて考えていく。

### ●委員長

現時点で中央館というもののイメージはできないが、具体例を出しながらやっていけばいいだろう。その他に何か。

### ●委員

中央館については、具体的にはまだ解らないが、人はやっぱり必要だと考えている。小学校を代表するものとして、学校の中で図書館を利用して子ども達が調べ物をして、なにがしかの成功体験を得ることで、子ども達が図書館で仕事をしたいとか、図書館のよさを他の人に伝えたいと思えるような大人になる育ちを学校の中で支援できたらと考えている。そういうところから中央図書館機能について考えていければと思う。

### ●委員長

現状は、どうしても量的には減少こそすれ増える要素がなく新規の施設も不可能であるが、ニーズは高まっていく中で、サービスを向上させながら人材の質を高めていく。豊中市立図書館に求められるサービスをレベルアップしていくための方向性の提案だと思う。

●委員

「豊中市立図書館の施設配置」を見ても、今までの図書館配置になれ親しんでいるので中央館というもののイメージが湧かない。サテライト化される方向で進んでいることと統括するものとしての中央館という解釈でいいのか。

●事務局

中央館に近い機能は、今まで中心館的図書館として岡町が担ってきたが、外部との関係や行政の中などの様々な対応で、中央館機能としての役割を担うことについては支障が出ている面もあり、全館の統括ということで中央館が必要だと考えている。

●委員

今の子ども達が大人になって子育てする時など20～30年後に豊中市民で良かったと思えるような図書館であればと願っている。それからレファレンス機能については、中央館構想ということは理解できるが、図書館の機能はレファレンスだけではなく他にも色々ある。そのきめ細やかな対応は中央館構想ではどうなるのか。

●事務局

図書館施設全体を考える時、身近にあって必要なサービスを提供する図書館と統括する図書館の切り分けは大事だ。中央館が一つと残りはポイントだけということは考えていない。人口減少や情報取得方法の多様化と読書方法の変化などの動向も含めて判断しながら、中央館が担うことと地域の図書館の細やかなサービスは切り分けて考えるべきだと考えている。

●委員

中央館ばかりに焦点がたって、地域に不便だけが残るのかと心配していたが安心した。

●委員長

現状の「振り返りのよいところ」に書かれている地域格差が小さいことが豊中の強みでありこれを否定せず活かしながら、足りないところである人材や資源の集中などを強めるための中央館機能だとイメージしている。他に意見は。

●委員

中央館というより司令部を作って、今ある人員よりも少ない人員でより効率のよい運営方法を模索するために人材や資源を集中化することで、最大限効率的を上げることがキーになってくると思うが、この理解でいいか。

●事務局

司令部だけで独立して頭だけ強めて足元を弱めることは現実的でないので、土台となる足元を弱めることは防ぎながら、全体を見据えた機能を強めていきたいと考える。

●委員

岡町が今後空調工事をする予定なら、建替えて中央化すればと考えたが予算の問題もあり現実的でないだろう。やはり、地域格差の小ささという豊中のメリットを活かした中央館構想であるべきだと思う。それは、(仮称)南部コラボセンターにもつながっていくものでもあるだろう。

●委員長

他にいかがですか。

●委員

図書館の職員の人材育成については、個々人の努力や研修だけでなくステップアップするための豊中流の地域に根ざした形のキャリアパスが、中央館機能には必要になってくる。地域・市民に還元できるような、豊中市立図書館として将来的な人材育成の仕組みを提示していくことが大事であろう。

●委員長

今の図書館のメリットとその一方で事務局が課題であると考えている部分について、次回までの宿題とする。

では、この議題については一旦閉じて、その他の説明を事務局に願います。

●事務局

資料5、幸町機能変更について報告する。関連資料として庄内幸町図書館の概要、貸出冊数、来館者数などの統計、市内の地域館、分館、分室、図書室などの配置状況、そして市内の町丁別の貸出冊数のチャートを配布している。

今回、幸町図書館の利用状況および地域からの要望などを勘案して機能変更を予定している。具体的には、開館日を現行週6日から3日程度に変更し、2階に自習・新聞閲覧スペースを開設、これについては現行通り週6日開放する形で検討をすすめている。自習・新聞閲覧スペースに関しては南部で要望の高いものである。

資料6、広域利用について。7月1日より現行の豊能3市2町、吹田市一部広域をさらに拡大する形で、高槻市、茨木市、摂津市、島本町、吹田市立図書館全館を利用できる7市3町の広域利用がスタートした。

資料7、大阪市民が庄内図書館限定で利用できる広域利用も開始した。

次に、事前配布資料の「(仮称)南部コラボセンターラウンドテーブル2017」については、事務局から出されたフロアイメージにそって1階から3階の階層ごとに3回行う予定。先日6月27日は1階部分、図書館こども室、保健センター、子育て支援センターが入る予定のフロアについてグループワークを行った。参加者は17人、子ども文庫の世話人、読み聞かせのボランティア、図書館職員や行政職員、「おやこでにほんご」のボランティアなど、子どもや子どもの本に関わる市民の参加があった。内容としては、アイスブレイク、事務局からの現状のプランや図書館協議会の提言の紹介、他市の様々な事例について情報提供を行った後、グループに分かれて案出しをした。意見として、多文化共生の視点や子どもの居場所としての機能、エントランスの工夫やエリアを低い棚で仕切るなど様々なものがあった。7月20日に2階部分の学習支援と市民活動、

7月27日に3階のくらし、生活支援、高齢者支援などの部分についても引き続き開催予定。また市の企画調整が主体となって、南部のまちづくり全体を視野に入れた市民ワークショップも7月より実施される予定。

資料8、豊中市立図書館中長期計画グランドデザインについての平成28年度の振り返り、さらに29年度に優先的に取り組むべき事業についてまとめたものである。このグランドデザインについては次年度の評価の際に中間的に見直しの機会を持つ予定。

次に来館者アンケートについて報告する。

資料9、「豊中市立図書館の利用について」は、アンケート調査票になる。前回5年前のアンケートに比べ少し新しい項目を加えて来館者アンケートとして実施する。この調査により利用者のニーズを把握し、これからの図書館運営に活かしていく。今年度後半に図書館評価システムの外部評価のため図書館評価部会を開く予定で、部会長には図書館協議会より瀬戸口委員にお願いしている。このアンケート調査結果については、まず部会に報告することになる。

資料10、前回平成24年度豊中市立図書館利用者アンケート等調査結果とその後の取組みについては、このアンケートで図書館サービス利用状況や満足度、各種サービスの認知度等の状況を把握した。暮らしの課題解決支援サービス関わる設問で、来館者がどんな分野の資料の充実を求めているかを訊ねている。来館目的ごとにその達成度を訊ねた結果からは、特にレファレンス・サービス（調査相談機能）を活用して貰う必要性を認識し、その後の取組みにつなげるよう意識した。利用し易さに関する利用満足度の結果では、「読みたい本や雑誌の充実度」について、他の項目に比較し重要度が相対的に高い反面、満足度は低いという結果であった。「職員の対応」については、重要度・満足度ともに高い傾向であった。「本や雑誌の探しやすさ」については、重要度は高く満足度は中程度、「休館日」「他の利用者のマナー」については、相対的に重要度・満足度ともに中程度という結果であった。暮らしの課題解決支援サービスに関し、資料の充実を希望するテーマとして多かったものは、「医療情報」「特に無い」「子育て」「ビジネス・就労」「多文化共生」「地域に関すること」の順で、その他複数回答があったものとしては、「高齢者福祉・介護」「福祉・生活相談」「人権・女性問題」「環境問題・自然災害」等であった。

次に自由記述欄で多かった意見は、「読みたい本や雑誌の充実」の他に、「AV 資料の充実」「インターネットサービス」「開館時間・休館日」「図書館の設備」「職員の対応」「図書館利用の上でのマナー」に関するものであった。「インターネットサービス」に関しては、検索サービスの利便性向上やスマホ等新しいデバイスへの対応が求められており、システム更新で順次様々な機能を提供することにつなげた。

24年度アンケート実施以降5年間の取組みとして、・IC タグによる資料管理、BDSゲート（貸出手続き確認装置）の設置・セルフ貸出・返却・予約棚（予約図書受取システム）の地域館か分館への順次導入・CD 返却ポスト設置・公衆無線 LAN の導入・豊能地区3市2町による広域利用等、様々の面から機能向上に努めた。

「図書館の開館時間・休館日」に関しては（既に前回アンケート以前に岡町・庄内・千里・野畑の4地域館では実施済だったので）、4分館で土日と重なった祝日開館を実施、千里図書館では定例休館日だった月曜を開館する取組みを実施した。

「自習室を確保して欲しい」「本を読むスペースがもっと欲しい」「端末を増やして欲しい」等の意見については、図書館本来の機能を確保しつつ、利用者ニーズにあったサ

ービス・環境整備の向上について各図書館の現状とすり合わせしながら対応を行った。「職員の応対」に関しては、「応対が悪い」「職員の声大きい」等の意見とともに感謝の言葉もいただき、引き続き丁寧な応対を目指しカウンターやフロアでの案内に努めていく。「図書館利用の上でのマナー」については、落書きや破損など利用者のマナーについて意見をいただいたことから、図書館を利用する上でのマナー向上の啓発に努めている。以上が前回アンケート及びその後の取組みの報告である。

図書館サポーターの状況について。

庄内図書館では3月より活動を開始し、現在毎回8人程のサポーターの方に研修を実施、その後本の修理などに取組んでいる。研修では修理の方法だけではなく、この事業の意味や図書館が目指しているものや図書館が現状行っているサービスなどについても知ってもらった上で、サポーター活動を開始してもらった。その中で図書館に関する質問に答える機会も多く、図書館の取組みや現状を理解してもらい、字義通り図書館のサポーターになっていただく大事な機会だと実践して感じたところである。

野畑図書館でも庄内図書館の後を追いかける形で、昨年度末から今年度にかけて、「大人のための図書館のお仕事体験ツアー」を3回行った後に、図書館サポーター募集をうたった研修講座を開催した。傷んだCDケースの交換や簡単な修理をしてもらい、結果7人の方が図書館サポーターとなり、作業の中で図書館に関する質問に答えることも多く、図書館のさまざまな側面を知ってもらえると感じている。引き続き7月9月10月と、研修講座と活動を並行して行っていく予定なので、図書館サポーターの人数ももう少し増えると予想しており、活動の定着を目指していく。

資料11、岡町図書館の1階こども室については、7月より9月まで2時間延長し、5時までだった閉館時間を7時までとし、夏休み中もゆっくり子ども室を利用してもらえるよう開館時間の延長を試行実施している。

資料12、図書室を利倉西センターに7月23日（日）開室する。それに合わせて、豊島西小内のバス図書室および近隣の動く図書館の巡回を休止するのであわせて報告する。

#### ●委員長

今の報告に関し質問はありますか。

#### ●委員

アンケートの設問内容について、協議会で意見を出すことが可能か。

#### ●事務局

基本として前回は大きくはずれないようにした。ただ、この5年間で変化があるところには設問を付け加えたのがこの原案である。まだ、最終形ではないが方向性としてはこう考えている。たとえば、4ページB-5の図書館の立地やB-7図書館からの情報取得方法のツールの種類の設問を付加や5ページのB-8図書館実施サービスについては、名称を仕分けしなおすなど5年間で変化のあったところを組み替えている。

#### ●委員長

今回の来館者アンケートの実施はいつ頃の予定か？

●事務局

実施時期としては、前回の内容を踏襲していいということであれば7月の実施を、協議会から沢山の意見をもらうことも見込んで9月実施の両方を想定している。

●委員長

5年前のアンケート調査との比較が重要な部分でもあるので大幅な変更は無理があると思うが、アンケート調査票の設問数が多いので少し減らす努力も必要だと思う。

最終形はまだ未確定なので、アンケートの設問への要望があれば事務局に早めに意見をあげてください。今回に反映することが難しければ次回以降の参考にもなりますので。

それとアンケートの最後にある用語集は、図書館のサービス内容を説明したパンフレットのようなものなので切り離して持ち帰れるような柔軟なものにした方が良いでしょう。

●委員長

外部評価のための図書館評価部会の部会長は瀬戸口委員とお願いするということだが、協議会から部会委員を1名選出することになっている。どなたか適任者を推薦いただきたい。

では、後ほど相談して選出ということによろしいか。

部会長の瀬戸口委員から一言お願いします。

●瀬戸口委員

豊中市の図書館活動の評価を今後の向上に資する形で、客観的な目で外部評価に関わっていくので、よろしく願います。

●委員長

図書館の自己点検・自己評価については、全国の図書館でも言われるようになったが、最初に取り組んだ図書館の一つが豊中市である。それを踏まえて客観的に外部の目で外部評価に取り組んでいる図書館は数少ない。このシステムが、今後の豊中市の図書館活動の向上につながって欲しい。

他に意見や質問などありますか。

●委員

サポーター活動のサポーターからのフィードバックはどうなっているか。

●事務局

庄内図書館のサポーターからの感想は把握しているが、活動開始後半年を経過したことから、サポーターとしてやりたいことやできると考えていることなども7月の活動日にアンケートを行って聞いてみたいと考えている。

今後、他の図書館でもこの活動が進めばサポーター同士の交流なども盛り込んでいきたい。

●委員

南部コラボセンターは1階が子ども達のスペース、3階が高齢者の施設ということですが、私が以前住んでいた所は逆で、子どもは階段を使い上に昇る。高齢者は車椅子の方もおられるので1階だったが、南部コラボセンターの施設配置には何か意味があるのか。

●事務局

ラウンドテーブルでは様々な意見、その中には各階における施設配置等への意見もある。南部コラボは子どもを中心に考えられている施設である。それと同時に、1階には健診会場がありベビーバギー等への配慮が必要となる。1階に子育て支援センター、図書館の子どもの部分、保健センターが同居して連携すればどうかというのが今の提案の状況。後2回あるラウンドテーブルで2階・3階の施設配置等を検討した上で基本設計を考えていくことになる。

●委員

前回のアンケートの回収数は2400余、それ以外に他部局との連携でアンケート用紙を配布したとのことだが、今回も同様になるのか。

●事務局

各図書館カウンターで直接利用者に手渡す形の来館者アンケートについては同様に行うが、郵送アンケートについては、前回前々回と他部局関連の市民アンケートに相乗りする形で行ったが、今回は、図書館独自での実施は難しい部分も多く郵送アンケートは行わない。ただ、総合管理計画に付随する市民アンケート等が行われていることもあり図書館に関する市民意識などを外部評価の参考資料として活用していく。

●委員長

まず、図書館を利用される方の意見を、来館者アンケートできちんと把握することが大事だ。そしてできれば、市が行うアンケートなどの中にさりげなく図書館関連項目を加えて貰う働きかけをしていく努力をする。そうすれば、もう少しフラットな回答が得られると思う。これにて閉会する。